

1. 滋賀県東近江市における 文化遺産学フィールド実習について

東 昇

1. 実習のねらい

地域の文化遺産の調査や保存、活用についての理解を深めるためには、実地で文化遺産に対する調査を経験したり、実際に文化遺産の保存・活用に携わる行政担当者や地域住民の「生の声」を聞くことが不可欠である。京都府立大学文学部歴史学科で開講している「文化遺産学フィールド実習」は、次年度から各ゼミに所属していくこととなる学部2回生がフィールドワークの初歩を経験できる集中講義である。毎年夏季休業を利用して、2泊3日の日程でフィールドワークをおこなっている。受講者はそれぞれの関心にもとづいてさまざまな文化遺産に関わる課題を設定し、担当教員からの指導を得つつ、事前学習をおこなった上で調査に臨む。

2021年度は東近江市歴史文化振興課の全面的な協力のもと、11月に実施した。新型コロナウイルス（COVID-19）の流行のため、8月に予定していた2泊3日の実習が直前に延期となり、11月14・23・28日に分散し、感染防止策を講じながらの実施となった。東近江市の文化遺産としては、東近江市金堂地区伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区）、伊庭内湖の農村景観（国選定重要文化的景観）が有名である。その他、勝堂古墳群や中山道などの史跡や、勸請吊り・山上神社祭礼など未指定の文化遺産も豊富に存在している。

現地での実習では、受講者一同で東近江市の文化遺産を見学し、歴史文化振興課のこれまでの取り組みを聞くとともに、受講者が事前学習で関心を持った個別の文化遺産についての現地調査を実施した。次章以降に掲載される報告は、文化遺産学コースの教員の指導のもと、受講者が実習を通して得られた成果からそれぞれの文化遺産の特性や現状について述べるものである。

参加者	学生2回生	岩本悠梨	上田龍摩	大倉響稀	大須賀丈汰郎	鈴木綾音
		添田春香	武田知奈	林田実佳	山内愛弓	横白彩江
	大学院生	滝澤和湖	溝口泰久			
	教員	諫早直人	上杉和央	岸泰子	東昇	菱田哲郎

2. 主要な行程

・11月14日（日）

10：00【共通】勝堂古墳群、石棺の実測、おから山古墳整備・管理の聞き取り

13：00【共通】東近江市埋蔵文化財センターの見学、保存活用の聞き取り

14：00【個別】未整理古文書の整理、中山道の道標・石造物調査、法堂寺廃寺の見学

- 11月23日(火)
 - 9:00【個別】伊庭の屋敷地、勧請吊の見学と聞き取り
 - 13:00【共通】謹節館で、まちづくり、勧請吊、在地などの聞き取り調査
 - 15:00【個別】埋蔵文化財センターにて、岩上在地、山路上山神社の祭礼の聞き取り、伊庭にて屋敷地の聞き取り調査
- 11月28日(日)
 - 10:00【共通】金堂地区のまちづくりに関する聞き取り
 - 11:00【共通】弘誓寺本堂、書院・大広間の見学
 - 13:00【共通】正源寺地蔵堂の実測、祭礼の聞き取り
 - 15:00【共通】大城神社、金堂廃寺調査
 - 16:00【個別】山路上山神社・岩船神社、勧請吊の見学

謝辞

本実習の実施に際して、東近江市の方々・機関には大変お世話になりました。末尾ながら御礼申し上げます。



フィールド実習の様子(11月14・23・28日)